

# 高齢者分野・障害者分野それぞれから見たソーシャルワークの学び

## 目次

1. はじめに
  2. 共通の学び
  3. それぞれの学び
    - a. 高齢者分野
    - b. 障害者分野
  4. まとめ
- 

## 1. はじめに

私たちは、以下の分野で実習を行いました：

高齢者分野：居宅介護支援事業所

障害者分野：障害福祉サービス事業所（就労継続支援 B 型、相談支援事業所）

実習では利用者理解、組織運営、多職種連携などを学びました。本発表では、特に利用者主体とプランニングに着目し、共通点と分野別の学びを整理して報告します。

---

## 2. 共通の学び

利用者主体

利用者の意見を否定せず、尊重することが基本。

プランニング

本人の強みに着目する。

専門用語を避け、わかりやすい表現を用いる。

本人や家族が不快に感じる表現をしない。

---

## 3. それぞれの学び

a. 高齢者分野

居宅介護支援事業所における活動

ケアプランの作成

他機関との連絡・調整

介護認定調査の立ち合い

定期的なモニタリング訪問

利用者主体

サービスへの理解を深めてもらう。

利用者の強みを活かすプランの作成・提案。

選択肢を増やせるサービスの提案を行う。

プランニング

利用者理解を深め、個々に適した支援を提供する。

b. 障害者分野

利用者主体

プランニング

生活課題	目標	支援内容
挨拶ができていない	挨拶ができるようになる	挨拶が出来ているか確認・声掛けする
作業に集中できていない	作業中は絶対に寝ない	寝てしまったときは注意する
生活課題	目標	支援内容
挨拶ができていない	挨拶ができるようになる	施設に来た時に挨拶が出来ているか確認・声掛けする
作業に集中できていない	作業中は作業に集中する	寝てしまったときは気分転換をするように声掛けをする

---

#### 4. まとめ

分野によって対象や支援方法には違いがあるが、利用者の生活課題を解決するという目的は共通している。

高齢者分野・障害者分野ともに、利用者理解が不可欠。

コミュニケーションを通じて、その人の生活環境や病気・障害に合わせた支援を考えること

が重要である。